

カビ(真菌)の正体を知りつくし、
増えつづける感染症にそなえる、座右の一冊！

住まいとカビと病原性

—カビはどの程度危険か—



宮治 誠 千葉大学名誉教授
西村和子 千葉大学名誉教授 共著

水虫、カンジダ、日和見感染症だけではない!
カビ(=真菌)がもたらす病気を見続け、
原因菌を追究・研究すること30年以上、
日本の医真菌学会をリードしてきた

2人の巨頭が繰り出す

住環境を汚染するカビの

もっとも詳しい解説書。

身近に生きている主な環境真菌120種余りの
生態・性状・病原性、

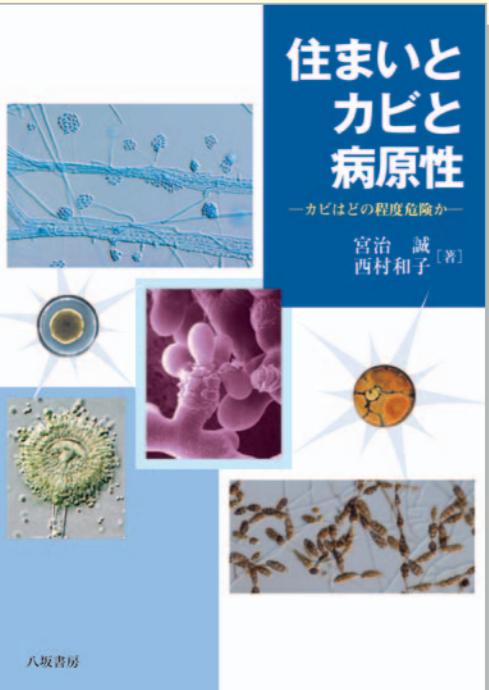
危険度・病原度などを詳述。

さらに、

コクシジオイデス症、ヒストプラズマ症など、
今後、危惧される

輸入感染症とその原因菌を紹介。

人体の各臓器から分離された菌の一覧表付き。



《目次より》

- I. カビとはいっていい何なのだ！
- II. カビはどんな環境を好むのか
- III. 環境菌の病原度—微生物の危険度分類表はそのまま「環境菌の病原度」に適用できるか—
 1. 危険度分類
 2. 環境真菌の「病原度」
- IV. ものな環境真菌
- V. 新興真菌と新興真菌症
 1. 日本における新興真菌症の原因菌
 2. 特に注意すべき新興・再興真菌
- VI. カビによる病気が増えている
 1. 日和見真菌感染
 2. カンジダ症

- 3. アスペルギルス症
- 4. クリプトコックス症
- 5. 接合菌症(ムーコル症)
- 6. 黒色真菌症(クロモミコーシス)
- 7. スポロトリコーシス
- 8. 水虫はなぜ治りにくいか
- 9. 輸入真菌症
- 10. 眼科領域における真菌症
- 11. 耳鼻科領域における真菌症
- 12. カビとアレルギー—アレルゲンとなるカビ—

B5 並製・カバー装、総 208 頁
本体価格 7,800 円+税
[ISBN978-4-89694-935-3]

八坂書房 〒101-0064
東京都千代田区猿楽町 1-4-11
Tel.03-3293-7975 Fax.03-3293-7977
URL: <http://www.yasakashobo.co.jp>
e-mail: info@yasakashobo.co.jp

『住まいとカビと病原性』組見本

IV. ものな環境真菌

フイライド phialide はフラスコ形、複列で頂嚢の上半分を被う。分生子 conidium は球形で 1 細胞性、壁は粗ぞう、3~3.5 μm である。
褐色の分生子頭は短い円柱で、孢子叢称 cleistothecium が豊富に形成される。
【病原性】外耳道真菌症の原因菌である。
【危険度】日本医真菌学会の「危険度分類表」では class I、環境菌でのランクは「病原度 I」

v. ガロ型分生子 poroconidium

分生子柄 conidiophore あるいは分生子形細胞の壁に小孔が生じ、その孔から出芽的に生じる分生子で、着色した多細胞性のものが多く見られます（例：ウロクラジウム *Ulocladium*、アルテルナリア *Alternaria*）（写真 1~4）。

L. カビとはいっていい何なんだ！

菌種ごとに危険度、病原度を明記

写真 IV-6-1 アスペルギルス・ニジクララス *Aspergillus nidulans* の集落
写真 IV-6-2 アスペルギルス・ニジクララス *Aspergillus nidulans* の孢子叢
写真 IV-6-3 アスペルギルス・ニジクララス *Aspergillus nidulans* の分生子
写真 IV-6-4 アスペルギルス・ニジクララス *Aspergillus nidulans* の分生子

写真 IV-7-1 アスペルギルス・パラチティクス *Aspergillus parasiticus* の集落 PDA、25℃、9日間培養
写真 IV-7-2 アスペルギルス・パラチティクス *Aspergillus parasiticus* の分生子 ラクトフェノール、x400

vii. 分節型分生子 arthroconidium

菌糸に多数の隔壁が生じ、この隔壁のところに分離した個々の細胞になります（図 1~14）（例：白癬菌、ゲオトリクム *Geotrichum*、コクシジオイデス・イミティス *Coccidioides immitis* など）。

図 I-13 アレウロ型分生子 aleuroconidium
1. 病原ホウズキの大分生子
2. 黄色分生子あるいは無色分生子が肥大し、やがて分生子の底となる部分に隔壁が生じる。
3. 分生子への分化が進行し、菌糸側にも隔壁が生じる。
4. 分生子が成熟すると隔壁を保有している菌糸の先端部が突出する。
5. 分生子が脱落在する。
6. 有性配偶子の小分生子
7. 黄色先端、小柄の基部に隔壁が生じる。
8. 分生子が成熟すると小柄の基部隔壁が開き、分生子は離散する。

図 I-14 分節型分生子 arthroconidium
菌糸に多数の隔壁が生じ、この隔壁のところに分離した個々の細胞になります（図 1~14）（例：白癬菌、ゲオトリクム *Geotrichum*、コクシジオイデス・イミティス *Coccidioides immitis* など）。

viii. 膜胞子 clamyspore

菌端部あるいは中間部で隔壁質が凝縮し

病気と菌のつながりがわかる！

写真 VI-15 スポロトリコーシス (左前脚) リンパ嚢にそって転移していく皮膚病変

症例写真を豊富に収録。ひと目でインプット

スボロトリコーシス

スボロトリコーシスは千葉県で多い皮膚疾患です。スボロトリコーシスはトゲや皮膚の弱い箇所からスボロトリックス・シェンキー *Sporothrix schenckii* というカビが侵入して起ります。通常病巣部は皮膚、皮下組織およびリンパ管に局限され、結節性および潰瘍性病変が形成されます。病巣は一見おどろいたいのですが、痛みはありません。以前この病気はあまり知られていましたが、よく皮膚結核、あるいは皮膚癌と間違われました（写真 VI-15）。

患者発生と気候との関係

千葉県はこの病気の発生が多いですが、県内でも地域によってその分布に差があります。かつて私の研究室に所属していた羽津都希雄君が作製した地図によると患者の発生は八千代市から習志野市にいたる台地、成田市および八街市場市周辺、成田市および東金市周辺、あるいは利根川沿いから茨城県竜ヶ崎市周辺に患者の発生が多いです。一方千葉県でも南部の地域、つまり房総半島先端へいくに従い患者の発症は少なくなっていますことがわかります。

このような患者の発生分布と気候との間に密接な関係があります。患者の多くは秋から春にかけて活動している皮膚病変

〈書店名〉

著者略歴

宮治 誠 (みやじ・まこと)

1937年神奈川県川崎市生まれ。1968年千葉大学大学院医学研究科修了。医学博士。1973年より千葉大学生物活性研究所助教授、同研究所教授、Centers for Disease Control(米国)出張、千葉大学真核微生物研究センター長などを経て、1997年より千葉大学真菌医学研究センター長、同大学評議員。2003年退官。千葉大学名誉教授。2005年千葉大学ベンチャー企業(株)ファーストラボラトリーズ代表取締役、現在に至る。

この間、日本菌学会会長、日本医真菌学会理事、アジア国際菌学連盟副会長、北京医科大学(現北京大学医学部)客員教授などを歴任。第22回日本医真菌学会賞、第46回日本菌学会教育文化賞、第33回講談社出版文化賞科学出版賞を受賞。

西村 和子 (にしむら・かずこ)

1940年東京都豊島区生まれ。1970年千葉大学大学院医学研究科修了。医学博士。1972~76年の国立習志野病院皮膚科勤務の後、1977年より千葉大学生物活性研究所助教授、米国エモリー大学リサーチフェロウ、千葉大学真菌医学研究センター教授を経て、1999~2005年同センター長、同大学評議員。2006年退官。千葉大学名誉教授。2005年千葉大学ベンチャー企業(株)ファーストラボラトリーズ専務取締役、現在に至る。

この間、日本菌学会理事、日本医真菌学会理事、日本微生物資源学会会長、理事を歴任。2000~02年文部科学省科学技術振興調整費「病原真菌・放線菌の遺伝子資源と国際ネットワーク整備」および2001~04年同省ナショナルバイオソースプロジェクト「病原微生物」の代表。1997年日本医真菌学会賞、1998年国際医真菌学会発行誌のベスト論文賞、2003年千葉大学長賞を受賞。